

(仮称)釜ヶ崎夜間学校 ニュース

第66回報告テーマ:「文集」の合評会と今後の運営について

これがからの夜間学校

日雇労働者としての価値観を明らかにしよう

今回は参加者が少なく、充分な「夜間学校文集」の合評会ができませんでしたが、それでも次のような声がありました。

「一番おもしろかったのは『少女と労働者』だった。いかにも釜ヶ崎の労働者が書いたような作品だと思う。」

「言葉に表わせない雰囲気がよくできていると感じた。(『少女と労働者』について)」

「詩を書いた人は、大分長い間、西成に居る人のような、難しい字を使っているなあ。」

「現代詩の難しいところやな。」

「次回は、もっと生活記録があればおもしろい。」

「夜間学校ではまた、可やられつづけたために」という飯場へ行った時のためのパンフレットをつくりました。貸金未払いがあっても、飯場の所在地や親父の

名前などが分からなかったらどうしようもありません。多くの人に利用していただきたいと願っています。(一部100円)

今後の夜間学校について

今まで、大きくテーマを労働・歴史・医療・運営委員会と決めて行なってきました。今後は、もっと一つのテーマを深めて進めていこうと話合っています。

「話しの内容が客観的すぎる。」「ここは勉強の場だと思っている。」などの感想がありました。確かに、夜間学校とは何か」という定義付けはもう一つはつきり出されはし、みんなこつこつといていこうという所から始まっています。それだけに、何か実際にやってくれるだろうと思ってくる労働者が失

望し、次回から顔を見せなくなるのも

その辺に原因があると思われれます。早急な問題を解決することはできませんが、テーマに沿ってみんなこつこつと中で徐々に、一つの価値感を各々の中に根づかせていければと思います。今後は、「今回出された意見を次回にもつなげていくかたちで、一回一回の積み上げで、何かをつくっていったらいいのではないかと」共助組合のようなものを夜間学校でつくっていかないと、等の意見が出されました。

(仮称)釜ヶ崎夜間学校

—運営委員会準備会—

住所: 西成区萩の茶屋 2-1-8-18

喜望の家内

電話: 06-6471-3946

毎週木曜日 夜7時~9時

